

科目名	運動療法学【理学】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	満 丸 望						
開講年次	2	開講期	後期	単位数	2	必修・選択	必修（理学）
授業の概要 及びねらい	運動療法学は理学療法を中心的な治療手段である。この授業では、運動療法の理念ならびに基本的な治療手技について講義する。運動療法の手技や考え方を理解するためには、1年次に学習した解剖学や生理学、運動学の知識が必要不可欠である。授業を受ける準備として、解剖学や生理学、運動学などの理学療法専門基礎分野の講義内容を復習しておくことが望ましい。						
授 業 の 到達目標	1. 関節可動域制限の因子および改善の方法を理解する。 2. 関節モビライゼーションとストレッチングの方法を理解する。 3. 筋力低下の原因および改善の方法を理解する。 4. 持久力低下の原因および改善の方法を理解する。 5. 運動療法機器の適応を理解し、安全に使用できる。 6. 筋緊張異常を理解し、適切な手技を選択できる。 7. 協調性運動障害の分類を理解し、適切な手技を選択できる。 8. バランス障害の原因を理解できる。 9. 姿勢障害の分類と原因を理解できる。 10. 歩行障害の原因を理解し、歩行分析ができる。 11. 運動療法学の国家試験問題が解ける。						
学習方法	講義で行う。運動療法機器を使用した理学療法など若干の実技やビデオ視聴による動作分析も行う。毎回小テストを行う。						
テキスト及び参考書等	○運動療法学テキスト、南江堂（参考図書）運動療法学 障害別アプローチの理論と実際、文光堂						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎						50
小テスト等	◎						10
宿題・授業外レポート	○	○					10
授業態度			◎				10
受講者の発表	○	◎	◎				10
授業への参加度			◎	◎			10
その他							
合 計							100
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
第 1 週	運動療法の理念（定義と歴史）、解剖学・生理学の知識の確認（小テスト実施）						
第 2 週	運動療法の基礎（関節運動学）						
第 3 週	関節可動域制限に対する運動療法						
第 4 週	関節モビライゼーションとストレッチング 実技を行う						
第 5 週	筋力低下に対する運動療法						
第 6 週	持久力低下に対する運動療法						
第 7 週	運動療法機器（参考資料配布） 実技を行う						
第 8 週	中枢神経性運動麻痺に対する運動療法						
第 9 週	協調性運動障害に対する運動療法						
第 10 週	バランス障害に対する運動療法						
第 11 週	姿勢障害に対する運動療法 グループワークを行う						
第 12 週	歩行障害に対する運動療法 ビデオ視聴による歩行分析を行う						
第 13 週	特殊な運動療法Ⅰ（参考資料配布）						
第 14 週	特殊な運動療法Ⅱ（参考資料配布）						
第 15 週	運動学習、授業のまとめ						
第 16 週	定期試験						
備 考	実技の際には白衣、実習靴の準備をしておくこと。 授業外学習（事前学習・事後学習）の指示：解剖学、運動学の復習をしておくこと						